

1. 評価報告概要表

作成日 2007年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500887
法人名	医療法人社団田口会
事業所名	グループホーム コアラ
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1 (電話)

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年12月7日

【情報提供票より】(19年 11月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1階建ての,	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	無	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	700 円	おやつ	円

(4) 利用者の概要(11月 12日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	3名	要介護4		3名	
要介護5	0名	要支援2		1名	
年齢	平均 83歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人慶仁会 城山病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医師である理事長は、入居者が車いすを使わず日常生活をおくれることを目標とし、毎週ホームを往診し入居者の健康管理等の指導を行っている。ホームの日常生活においては、数種類の散歩コースを設け、散歩を日課とすると共に、1日置きの買い物等外出の機会を多く計画し、職員と入居者が常に行動を共にし、入居者の身体機能の維持に努めている。食事は、家庭菜園で職員と入居者がともに収穫した新鮮野菜を食材に使用したり、その日に食べたい希望を聞きながら献立を変更するなど、食の細い人のないよう食事に配慮している。また、経営者は、運営の総てを職員に任せ、職員はやりがいを持って介護に務めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果を職員会議で検討し、「家族向けの「コアラ新聞」を発行する」「個別の介護記録を介護計画に反映させるため、生活全体について具体的な記述を行う」「玄関にセンサーを設置し、鍵をかけない支援を行う」等の具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行うなかで、徘徊者の介護の在り方について検討を行い、入居者の無断外出の時間帯を把握し、職員が見守ることとし、無断外出入居者としばらく歩くなどの介護を行う実践をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を今年度1回開催し、ホームの運営状況や職員の研修について報告している。会議では、家族から併設グループホームとの間仕切りの撤去について要望があったが、趣旨を説明し了解を頂いている。また、地元代表者の1名の方は過去1度も出席していないため、運営推進会議の構成員や開催回数について検討されるよう期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族から意見・苦情等を管理者や職員に気軽に言えるよう、訪問時にお茶などを出しコミュニケーションを図るなど雰囲気作りに努めている。また、家族からの要望に応え、食後の休憩の後には散歩や体操をするなど工夫している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の途中で地域の人達と挨拶を交わしたり、小学校の運動会を参観したり、公民館の「いきいきサロン」に出席したりしているが、自治会や老人会主催の行事等には参加していない。このため、地域活動等に参加し、地元の人々との交流が図られるよう期待する。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法改正に伴い新設された地域密着型サービスについて、職員会議で話し合ったが、理念の見直し検討は行っていない。今後、職員会議で話し合い、新たな理念を設定し、理念に添った実践を心がけていく予定である。	○	地域密着型サービスに基づく理念の見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	従来理念である「事業目的及び運営方針」を、食堂及び玄関に掲げている。「事業目的及び運営方針」は、家族に説明し、意見や希望を聞き職員会議で検討を行い、家族の意見等を反映し、家庭的な環境の下で入居者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るよう努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人達と散歩の途中で挨拶を交わしたり、小学校の運動会を参観したり、公民館主催の「いきいきサロン」に出席して交流に努めている。しかし、自治会や老人会主催の行事等には参加していない。	○	地域活動等に参加し、地元の人々との交流が図られるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を玄関に掲示している。評価結果を職員会議で検討した結果、家族向けの「コアア新聞」の発行、介護計画に反映させるため個別の記録を生活全体について具体的に記述、玄関にセンサーを設置し鍵をかけない等の具体的な改善に取り組んでいる。また、自己評価は、「徘徊者の介護の在り方について」職員会議で話し合い、あらゆる方法について実践にむけ取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年度1回開催し、ホームの運営状況や職員の研修について報告している。家族からは併設グループホームとの間仕切り開放の要望があったが、クリスマス会等の合同行事以外は開放出来ない旨を回答し、了解を得ている。なお、地元代表者の1名の方は、過去1度も出席していない。	○	ホームでの取り組みや現状等を会議で話し合い、サービスの向上にいかせるよう、運営推進会議の構成員や開催回数について、検討されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>計画担当者が、市の担当者に各種書類を届けるなど機会をつくっているが、利用者のケアサービス向上についての取り組みはしていない。</p>	○	<p>市の担当者へ事業所の情報提供等を行い、サービスの質の向上に取り組むことを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に「コアア新聞」を発行し、行事報告や新人職員紹介を行っている。また、面会時には、日常生活状況や身体状況を報告している。金銭管理については、利用明細書にレシートを添付し、毎月家族に報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員は、家族等から意見・苦情等が気軽に言えるように、訪問時にはお茶などを出しコミュニケーションを図る等雰囲気作りに努めている。家族から食後横にさせないよう要請があり、食後の休憩の後散歩や体操をするなど、家族の意見を反映させ要望に応じている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は、必要最小限に抑えており、異動の際は利用者に紹介し、遊びや会話を通して一日も早く馴染めるよう努めている。</p>		
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新規採用職員は、法人本部で養成研修を行っている。ホーム配置後は、県で開催している基礎研修を順番に受講し、その後レベルアップ研修を受けている。受講後は、報告書を作成し、職員会議で発表している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会が主催する東毛ブロック相互交流研修会に参加し、他のグループホームの介護等を学びサービスの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族や本人にホームの状況を説明し、安心して入居出来るよう努めている。また、状況により2泊3日の体験入居が出来ることも説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は、野菜の栽培管理、食事の仕込み、共用部分の掃除、洗濯等を一緒に行い、共に支えあい、和やかな生活が出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や外出等は、日常生活の中で利用者の希望を聞き、その意向に添った支援をしている。また、意思疎通の困難な入居者には、面会時や家族の意向調査により好みなどを聞くとともに、日々の生活の中で入居者の仕草でトイレ等の思いをくみ取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前に訪問し、生活歴や希望等をお聞きし介護計画を作成している。また、面会時に入居者や家族等の意見や要望をお聞きし、サービス担当者会議で課題分析等を行い介護計画を作成している。作成された介護計画は、家族の同意を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即したケアが行えるよう毎日モニタリングを行っているが、介護計画を見直したケースはない。	○	職員が入居者の状況を共有しケアにあたるためにも、現状に即した介護計画の見直しをされるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容院の送迎は、原則家族の対応であるが、家族の状況等により職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族の意向をお聞きし、希望するかかりつけ医の診察は、原則家族が同行し受けている。受診後は、かかりつけ医での処方箋等、家族から状況報告を受けている。また、年1回市の定期健康診断を受けている利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師である理事長は、利用者が車いすを使わず歩いて日常生活が送れることを運営目標に掲げており、入居者の健康管理や職員への重度化の対応について指導をしている。重度化や終末期は、入院対応の方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや態度には注意し、プライバシーの保護に努めている。介護計画等の個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、取扱いは厳重にしている。個人情報の取り扱いマニュアルは、法人として整備されているが、ホームにはマニュアルが備えておらず、職員にも周知されてない。	○	個人情報マニュアルを備え、職員の共通認識が図られるよう期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状況を日誌等に記録し、職員で話し合うなかでその人にあつた介護に役立っている。食事は、入居者それぞれが自分のペースで食べられるよう食事の遅い人と早い人の席をわける工夫をしている。また、ホームでは散歩を日課としているが、時には一日6回散歩する入居者にも柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでの菜園で栽培した新鮮野菜を食材に使用し、下膳・配膳・食器洗い等を職員と利用者と一緒に、職員と会話をしながら食事をしている。献立表に基づき調理しているが、その日の食べたいものを聞き献立を変更する等食事を美味しく楽しめるよう心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回が原則であるが、希望により入浴日以外でも可能である。また、季節に合わせてユズ湯やしょうぶ湯を行ったり、シャワー浴もしている。浴室は、大きな浴槽に3人分の洗い場があり、入浴拒否者には、親しくしている入居者が入浴を誘って入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園の栽培管理、食材の仕込みや配膳・下膳・食器洗い、居室や共用スペースの掃除、洗濯や洗濯物たたみ、おしぼりたたみ等利用者の状態に合わせた役割をお願いしている。またボランティアのマジックショーを開催するなど、職員と共に楽しむ支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課とし、中学校一周コース、神社参拝コース等幾つかのコースがあり、1日6回散歩をする利用者に支援している。また、花見、ダム見学、鯉のぼり見物等のドライブの他、1日おきの買い物等、外出の機会を多くするよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵をかけていない。徘徊者介護の在り方を職員会議で検討し、玄関にセンサーを設置して、無断外出者には、安全を見守りつつしばらく後ろを歩き、声かけをして一緒に帰る等の支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震や火災を知らせる報知器を設置している。年2回避難訓練を行い、市の福祉センターの救急救命講習を受け、ホームで実地訓練を行っている。地域の人々への協力依頼は、行っていない。	○	日頃地域の人々の協力が得られるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分の摂取状況は、毎日チェックし記録している。水分補給は、不足しないように、食事の時間・10時・15時には摂取するよう特に注意を払っている。その他の時間であっても、希望者には随時お茶等を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には、思い思いに休憩できるよう2卓のテーブルとソファが配置されている。また、食堂に隣接した家庭菜園や、喫煙者のための場所も確保されている。随所に活け花や観葉植物が配置され、居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや椅子・テレビの他、使い慣れた手鏡が持ち込まれ、家族との集合写真や塗り絵が飾られている。また、利用者の希望により和室に改造された部屋もあり、それぞれの利用者の好みに応じた居室づくりがされている。		